

緑を増やして地球温暖化を防ぐ取り組み(5月20日)



今年も「緑の募金」や「赤十字活動資金」の募金が行われ、多くの市民の皆さんに趣旨をご理解いただき、ご協力いただきました。また、各地区の自治会長さんには募金集めにご協力をいただき、ありがとうございます。

こんにちは!!

市長です

Vol.68

「募金」

「緑の募金」は、おいしい水やきれいな空気を供給してくれる森林の整備に活用されます。これにより、地球温暖化を防止するなど、現在の私たちだけでなく、未来の子どものためにもつながります。

また、「赤十字活動資金」は、自然災害による被災者の救済活動や紛争犠牲者の支援などの人道的活動に使われています。

日本の募金などの寄付金額は、2010年から2020年の10年間に、2.5倍程度に増えたそうです。

これは、人々が東日本大震災などの大きな災害を経験し、助け合いの気持ちが表示されたのかもしれません。

募金は、もちろん義務ではありませんし、見返りを求めるものでもありません。しかし、募金を通じて思いを伝え、社会貢献活動に参加できる喜びがあると思います。募金を通じて、人と人との心のふれあいを育んでいきたいものです。

「共生社会実現のまち渋川市」をつくるため、これからも募金活動への協力を願っています。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

美術の小窓

《伊香保遠望》

やとうげ みさお
八峠 操作

2001年

縦65cm×横72.5cm

素材：紙本着色



八峠操(1927-2015)は、1948年、戦禍を避け白郷井村(現在の市内子持地区)に転居した日本画家・村上鳳湖(1879-1955)の門下生になると、それまでに独学で身に付けた技術や見識に磨きをかけていきました。

八峠作品の特徴は、画面の上のごく一部に描かれる山と、画面の大半を占める大地です。「絵は、見たままを描くのではない、感じたものを描くのだ」と語り、写実と抽象の間を模索し続けました。この作品は、一見すると普通の構図とも読み取れますが、空が少なく、山と街の風景が画面の大半を占めているところは、八峠ならではの表現方法と考えられます。この作品は、7月26日(水)まで市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で展示しています。

●市美術館は、移転のため休館しています

地域おこし
協力隊

長沼隊員の
おすすめスポット

— Vol.28 —



こんにちは！気付けば2023年も後半戦です。今回ご紹介するのはこちら！有馬・八木原にある南部跨線橋からの景色です。ここは多くの人が車で通り過ぎてしまうポイントだと思うのですが、実はこんな景色が広がっているのです！青々とした稲が育つ田んぼとその中心にまっすぐ通っている道のコラボレーションがなんと素敵な景色を作り出しているのです！やはり何気ない日常にこそ素敵な景色があるんですね…ぜひ、一度歩いて渡ってみてください！



▲協力隊のSNSはこちら

